

福祉の心を育てる教育の実践

米子市立弓ヶ浜小学校

1. 本校の教育目標

(1) 教育目標

知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かなたくましい子の育成

(2) めざす子ども像

自らよく学び よく考える子ども (知)

仲良く 互いに尊重し合う子ども (徳)

心身ともに健康で たくましい子ども (体)

2. 福祉教育の目標

- ・人と人との心をつなぎ、相手を認め合う人間関係を基盤に、温かいふれあいの心をもって、互いに助け合い、励まし合っていく社会連帯の心を育てる。
- ・日常の様々な出来事に目を向けさせ、社会的関心、連帯意識を養い、社会の一員としての自覚を養う。
- ・社会福祉への関心を高め、身近な日常生活の中で自ら実践していくことを通して福祉の心を育てる。

3. 実践の報告

【介護施設入所者の方との交流】

「浜の絆」に入所しておられる高齢者の方と交流をした。子ども達が校歌を披露し始めると、じっと聞いてくださり、歌い終わると温かい拍手をくださった。その後は、グループに分かれて自己紹介や手遊びを行ったりした。自己紹介のあと、子ども達から「子どもの頃よくした遊びは何ですか?」「得意だった教科は?」など質問して会話の糸口を作った。施設の職員さんもサポートしていただきながら、和やかな雰囲気で行うことができた。別れ際に「ぜひ、また来てください。」との言葉をいただき、全員が笑顔で終わることができた。子ども達も「始めは緊張したけど楽しかった。」「ゆっくりと話すように気がつけた。」など、温かいものを感じる交流を行うことができた。



【赤い羽根共同募金】

「私たちの町に住む人たちが、誰でも幸せに暮らせるように」という目的を委員会活動で児童と共通理解し、校内放送で募金の目的や意義などを全校に知らせた上で、募金活動を行った。募金に来た児童に向けて、「どうもありがとう。」と感謝の言葉を自然に伝える光景も見られた。活動終了後には、募金額の報告ポスターの作成や、全校に向けて協力に対する感謝の放送を行うことで、学校全体で達成感を共有することができた。



【ペットボトルキャップ回収活動】

ペットボトルキャップがベンチなどに生まれ変わることを知ってリサイクル活動を行った。世界規模でSDGsが推進される時代にあって、何か自分たちができることはないかという思いで、福祉委員会の児童が中心となって活動を企画・実行した。全校に呼びかけるために、ネットで調べたりリサイクル製品の写真をお知らせポスターに入れた。保護者の協力も得て、多数の児童が賛同し、約25.6Kgものキャップを集めることができた。



4. おわりに

コロナ渦で行うことができなかった介護施設の方との交流を数年ぶりに実施できたことをはじめ、地域の方や異学年との交流が行えた一年だった。今回の実践報告以外にも、運動会での異学年合同競技を実施したり、小中合同のリーダー研、クラブ活動で地域の方や外部の方との活動が実施された。様々な交流活動を通して、相手の気持ちを考えたり、ともに活動する楽しさを感じたりすることができた。今後も校内のみならず、地域や保護者との交流も含めて、様々な活動を通して、本校が標榜する「温かい学校づくり」の目標のもと、相手を思いやる行動ができるあたたかい子どもの育成を目指したい。

